

目的 前報ではスカートのギヤザー分量の差によるギヤザー効果と素材物性の関係を胴囲および腰囲を円としたモデルに着用させて検討し、曲げ剛性、ドレープ係数の物性がギヤザー効果に大きく関与あることを報告した。

本報では人台に着用させた場合のギヤザー効果とシルエットについて検討するとともに、ギヤザー分量の差ならびに素材に対する美しさとイメージの官能評価を試み、ギヤザー効果と官能評価の関係を検討した。

方法 ①試料は市販の中から8種選択し、ギヤザー分量は胴囲寸法の2倍、2.5倍、3倍、3.5倍、4倍の5種を設定した。スカート丈は胴囲線より68cmである。②ギヤザー効果を判断する因子はハム曲線からノード数、山の高さおよび谷の高さの平均と変動率、山と谷の角度の平均と変動率、ノード指数、垂下面積ならびにひろがり寸法を選定した。③官能検査はギヤザー分量の差に対する評価は順位法により、素材差に対する評価は一対比較法により行なった。また14のイメージ用語を選定し、素材別にイメージ評価を試みた。

結果 ①シルエットは人台の横方向へのひろがりの大きい素材は厚み方向のひろがりも大きく、剛軟度、ドレープ係数の大きい素材にこの傾向がみられた。またギヤザー分量の増加にともないひろがりは大になる傾向にあるが、ニット素材はこの傾向が小さい。②ギヤザー分量の差に対する評価はノード数の多く形成された素材は2倍が、他は3倍が高評価された。③素材に対する評価はノード数の多く形成されるやわらかい素材が高評価された。④SD法によるイメージ用語の得点評価は素材の剛さによって相反する傾向がみられた。